宝暦十四年甲申正月（表紙）

朝鮮人　御用中日記

渡邊半十郎下役
内山伴七

p1

正月廿二日朝鮮人御用御役所ゟ被仰遣候
二付今日鴻巣宿迄出立、加藤五左衛門殿方ニ
泊
廿三日
右宿ゟ加藤五左衛門殿、塚本惣左衛門殿同
籐左衛門殿出立、江戸本庄二ツ目みろく
した前池田屋利右衛門方へ落着
廿四日五日逗留
廿六日
右四人足立郡加田谷坂東民弥五人
ニテ出立戸塚宿ニ泊

p2

廿七日
大磯宿平田屋九兵衛方へ着申候
尤下宿記申候
渡邊半十郎下町旅宿
用人　斉藤惣八
士　金札権蔵
神尾慶次郎
師岡喜惣次
篠倉喜学
足軽、棒頭　定助
同断　　覚平
会田定七小者傳八下宿
近江屋太兵衛
濱名兵七小者伊助
黒沼秀蔵小者新内
野崎左四郎小者傳助

p3

下宿
丁子屋孫兵衛
廿七日晩大磯宿役人谷左衛門殿と
申者旅宿江見廻り申候

廿八日
今日下役之もの会所へ罷出御用留申候
風吹
廿九日
明日従朝鮮国進上之御馬弐疋芸
馬三疋大磯宿昼休、小田原宿ゟ
申来候ニ付御役所へ罷出支度御
用向相勤申候
晦日
今日進上之御馬午中刻大磯宿着
未下刻無滞致出立候、今日御馬
宿江相詰候渡邊半十郎手代濱名
兵七、野崎左四郎下役内山伴七
中根文治相勤申候、御注進御用

p4

箱従御役所被仰付馬入川御懸り
赤沼斧右衛門殿へ致持参相渡
申候、尤駕籠ニテ早々罷越暮六
時罷帰御用箱請取書左四郎殿
江相渡今晩八致休足候
二月朔日
明七ツ時ゟ雨降当日為御機嫌伺
下町御代官江罷出夫ゟとらこ石
見申候、尤此ノ役所江も罷出申候
進上之御馬芸馬共五疋之内八内黒馬
三疋白馬壱疋かけ馬壱疋不残志
たかふり。

御馬飼料

一、大豆五升　一、精壱斗　一、粉麦挽割
七升五合
一、粕壱升　一、塩壱升　一、白米五升
一、青草　一、苅豆之柴　一、草藁
右御馬宿勘兵衛御馬屋りう
きてうニテ三方包、御馳走方へ致書立

p5

御馬宿江着之節御代官御詰右書立
御馳走方へ御渡被成候
一、官人三人
次官　乗物、中官　乗物、下官　乗馬
通詞三人　内壱人加人右家来

弐人、右宿　本陣市右衛門
対州役人平田幸右衛門駕籠、引馬壱疋
上下拾人、右宿　安右衛門
一、官人宿詰御賄所出役
手代　会田定七
用人　斉藤惣八
下役　塚本籐左衛門
内山伴七
足軽弐人
右官人着之節袴羽織ニテ本陣門之内
左右ニかため申候、宿入り口迎出役之もの
黒沼秀蔵
加藤五左衛門
塚本惣左衛門
坂東民弥

p6

次官御料理献立

鱠　平目大根　汁　つミ入ほら
にん参せうか　岩たけ
くりきんかん　牛房
香物　なら漬瓜
味噌漬大根
濃醤　串子
きくらけ　飯
長いも
干さんセう
煮物　鶉　伊勢海老　汁　すまし
かんひやう　すぐき
松茸　ゆ
干わらひ
和(あえ)もの梨子
鉢引　かまぼこ　焼物鯛
雉子焼鳥
菓子　まんちう一　**右黒膳黒碗ニテ出**
いろ焼一
ようかん一
外セン茶是御馳走方ゟ出ル

p7

中官下官御料理献立右ニ准シ
申候、留不申候
二日
快晴風吹申候、御役所へ相詰申候
今晩鈴木久弥殿御着、外御手代
中玉木嘉内殿、小沢高蔵殿、棚橋卯
市郎殿、磯野常七殿、栗林政蔵殿
五人長崎屋へ御着見廻り申候
三日
雲る、五左衛門殿致同道高麗辻之
権現へ致参詣、夫ゟ山下村鍛冶屋
定右衛門と申もの方へ尋鎰(かぎ)あつらい
申候処日本名高き三手之由名承申候
八ツ時罷帰候、夕飯過濱へ罷出石取
申候
四日
快晴今日御馳走方脇坂淡路守様
昨三日江戸御出立平塚御泊ニテ今日
当駅御着ニ付為御馳走手代小沢

p8

高蔵磯野常七下役鈴木久弥
内山伴七宿端迄罷出岡田善太夫
取次ニテ被申上候、五左衛門、民弥、御蔵
場へ相詰、新器瀬戸物請負方へ
被相渡申候、八ツ時御代官会所并
下役宿御見分被成候
五日
快晴御役所庭ニテ下行諸道具
宿江相渡申候、五左衛門帳面渡方
相役伴七相勤御用蔵へ久弥
惣左衛門籐左衛門罷出申候、尤五ツ時ゟ
七ツ時迄御座候
六日
今日曇、御代官酒匂川御見分御越被遊候
下役塚本惣左衛門御供ニテ参、民弥、久弥
本陣ニテ道具請取、手代黒沼秀蔵
昼時ゟ五左衛門、伴七会所へ罷出相勤
来朝御旅割等写申候、七ツ時御代官
御帰宅被遊候

p9
七日
快晴風吹御代官馬入川船渡為
御見分八ツ時ゟ御越被遊下役久弥
御供いたし候、伴七民弥本陣勝手
諸道具相渡申候、御馳走方留守
居下役福部金蔵殿、小堀民右衛門殿
御立合手代黒沼秀蔵、棚橋
外市郎、民弥、伴七町役人
立合之上請取引渡相勤申候
暮六ツ時御代官御帰宅被遊候
八日　快晴
宿割家々為見分五左衛門、久弥、伴七
民弥、手代黒沼秀蔵、棚橋外市郎
町中相廻り申候、町役人壱人案内
いたし候、八ツ時罷り帰候、夫ゟ面々詰へ
宿へ張候、御料理献立写置申候
献立別帳有之候、通詞宿へ相詰
候旨役割を以被仰付候
p10
宿割絵図外ニ相認申候
九日　晴天
今昼時従朝鮮国進上之御荷物釣物
長持共五拾壱棹別幅と申白絹之
簗御荷物先へ建三度ニ大磯宿へ着
御荷物之差札ニ国禮物と有之候
対州役人
村瀬作兵衛
御荷物附役人
三浦平左衛門
脇坂淡路守内
関口十郎右衛門
引馬ニテ出迎
同
出迎　賀集卯右衛門
、　出迎　岡田善太夫
今八ツ時ゟ本陣才三郎方へ勝手諸道具
残之分手代黒沼秀蔵坂東民弥
伴七立合才三郎、町役人五左衛門
＊べつぷく：日本と明・朝鮮などとの間で取り交わされた外交文書で本文書(国書、書契)に添えて出された進物品の目録。
p11
与左衛門、市右衛門、才三郎三人方へ相渡
申候
十日　晴天
九ツ時対州御家来御宿割御着被成候
御賄所へ相詰御用談相勤相勤申候、五左衛門
久弥、籐左衛門、伴七夕飯時迄相詰メ
申候、御廻状留申候、夫ゟ下行渡方
帳面写則読合致候
十一日
雨降籐左衛門病気附中官小童
通詞御料理献立留、并手代下役
足軽役割宿家名姓名帳留
申候、**馬入川船橋絵図書申候**、今七ツ時
掛川御賄所ゟ申来候八信使一行
昨七日申上刻当駅着下行渡
無滞相済候処大井川出水ニテ立越
不相成今八日**当駅滞留**候由
大草太郎左衛門様宮村孫左衛門様ゟ
御廻状を以被仰出候
p12
十二日　晴天
今四ツ時野崎左四郎御用蔵御明跡
封印被仰聞伴七印形ニテ封印仕候
十三日
今日下町御代官江野崎左四郎案内
ニテ籐左衛門、惣左衛門、久弥、民弥、伴七
五人御前江罷出今度手代人数不
足ニ付本役ニ被仰渡其麻上下
被■(下か)置候、尤随分致手配大切
念入可相勤旨被仰渡候、夫ゟ
戻ニ会所へ罷出會田定七殿へ御禮
申上候、定七殿御持参御上下
御渡被下候、今日通詞宿へ相詰
御馳走方川西藤介殿、松原利平治
との知人罷成候、今八ツ過御代官
御見分相済申候、今晩宿平田屋
九兵衛方明日通詞宿相成候旨
p13

御懸左四郎殿被仰聞候ニ付只今
之内引払荷物諸道具御用
蔵へ相詰五左衛門印形ニテ封印
いたし尤宿長崎屋勘右衛門立
合申候、取払跡五左衛門方ゟ
御馳走方へ引渡申候、伴七儀八
車屋小左衛門方ニ致一宿申候
下役青木善八殿へ逢申候、今晩
四ツ過左四郎殿小左衛門方へ御出通
詞宿一軒九兵衛方相増候故右之
九兵衛方へ小左衛門方ゟ遣候品覚

覚

一、酒九合　　一、引盃壱人前
一、御料理上壱人分　一、同下弐人分
一、色し壱人前　　一、たはこ壱人前
右之通平田屋九兵衛方へ可相渡

p14

候　以上

御賄会所

申二月十二日

通詞宿車屋小左衛門

右之内酒盃たはこ之品八今はん
小左衛門方ゟ九兵衛方へ相渡[二〆]今十四日
仕出共相渡申候

通詞方五ツ時ゟ追々御着杉原
金十郎殿御病気ニ付是ゟ藤沢迄
駕籠人足共三人差出申候、鈴木傳
蔵殿御家来駕籠ニテ御立被成候
今日通詞宿ニ遣候人足
平四郎、傳四郎、傳介、源介、藤七
太右衛門、小[以]五人宿小左衛門膳
諸道具為相改候所盃弐ツ
黒盆弐枚青[漆]平弐人前致

p15

分失候、八ツ時仕廻会所へ罷出通詞
宿御賄無滞相済候段會田江
申上夫ゟ下町御代官江今日無滞
通詞相済候段惣八殿江申置候
夫ゟ御馳走懸川西籐助殿、杉原
利平治殿へ見廻、夫ゟ左四郎殿
秀蔵殿兵七殿江御宿へ罷出右
之段申上候、七ツ時宿平田屋へ
引越夜前面々荷物御用蔵
ゟ封印惣左衛門傳七立合切鍵
長崎屋持参之上御荷物出申候

十五日　曇

十九日
御代官御帰府被成候、同役不残町端
迄為御暇乞罷出候、馬入迄會田

p16

加藤御送ニ御供被成候、今晩入湯致度
旨相願候処熱湯江根布川御番
所ニ付宮ノ下之湯江可罷越旨
願相立申候

廿日　快晴

今日玉木嘉内、加藤五左衛門、内山伴七小者
市平、外平五郎五人ニテ宮ノ下
温泉江致出立候、尤平五郎儀八手前
相願手前入用を以入湯(仕脱?)度旨召連
罷越申候、小田原ニテ白米味噌其外
色々相求八ツ過宮ノ下湯本安藤
勘右衛門方へ致着候
＊てまえ：自ずからの費用でまかなうこと。

廿三日

玉木殿江戸ゟ御用申し来候旨會田
ゟ飛脚被遣候故廿五日宮ノ下
御出立平五供ニテ被帰申候

p17

廿日宮の下出立廿九日漸く
加藤五左衛門向山伴七小者市衛
三人ニて罷帰大磯宿旅宿へ
七ツ時致帰[所]候

三月朔日

今日伊奈半左衛門様御勘定衆并
御徒目付壱人今四ツ時当駅
御通行為御馳走野崎左四郎
栗林政蔵加藤五左衛門伴七
四人外足軽弐人宿端まで

相詰当駅御休九ツ過御出立
被成候事
二日
快晴
p18
九日
御代官御着二付馬入村迄同役不残
為御迎罷越候
十二日泊　御普請役
高橋新之亟
御小人目付
彦坂平五郎
（了）

青葉区古文書の会
割石洋策翻刻ス revised07aug2022